

令和8年度 授業改善推進プラン(社会)

台東区立桜橋中学校

学年	児童・生徒の実態を踏まえた課題	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
1年	- 基礎的基本的な知識が不足しており、社会という科目自体に苦手意識をもって入学してくる生徒が多い。 - 入学以来、授業規律が身に付いてきており落ち着いて授業を受けることができるようになってきた。	- 社会科の学習の仕方の基本を知り、生徒それぞれが自分に合った学習方法をみにつける。 - 資料やグラフの読み取り方の基本をみにつけ、教科書に書いてある内容を読み取ることができる。	- 都道府県名など、努力が結果に結びつきやすい課題を与え、成績の向上を評価することで、苦手意識の払しょくや学習へ向かう意欲の向上を図る。 - 身につけた技能を活用し、思考する課題を繰り返し与え、知識技能が定着するように導く。
2年	- 基礎的基本的な知識が不足しており、社会という科目自体に苦手意識をもっている生徒が多い。 - 落ち着いて学習に取り組む習慣を身に着ける必要があり、授業規律を確立させることが課題である。	- 教科書等の記述を参考にしながら、問いに対して自分なりの考えを持つことができる。 - 二つ以上の事柄の間に関係性を見つけ、その理由について考察し、文章等で表現することができる。	- 定期考査の中で努力が結果に結びつきやすい課題を与え、成績の向上を評価することで、苦手意識の払しょくや学習へ向かう意欲の向上を図る。 - 二つ以上の事柄の関係性を問うような課題に対しては、難易度を調整するとともに、協同的な学習も取り入れながら、成功体験を積み重ねられるよう配慮する。
3年	- 基礎的基本的な知識が不足しており、学習習慣が身につけていない生徒が多い。 - 情報と情報を関連付けて考えることが苦手で、読み取れた内容から推測して結論を出そうとする。	1学年から3学年までの基本的な知識技能をもう一度復習し身につける。 - 地理、歴史で学んだ既習事項を関連付けながら、見方考え方を活用し、現代社会の仕組みやこれからの日本について考えを深めることができる。	- 協同的な学習を活用しながら、自分自身の考えをまとめ発表する場を設定する。 - 公民の学習の中で、地理と歴史の既習事項を意図的に取り上げ、振り返りの機会とする。その際、2つ以上の事柄がつながっていることに気づかせ、社会という科目全体の関係性を感じさせる。